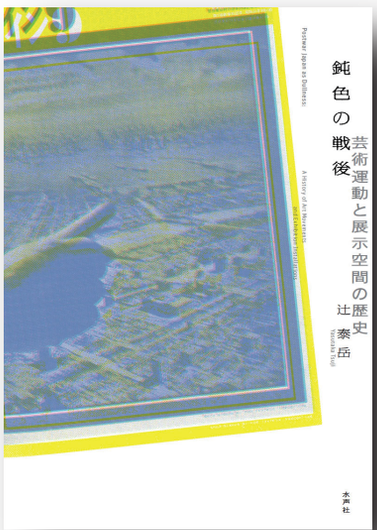
GUNMA PREFECTURAL LIBRARY
群馬県立図書館
新収蔵資料抄
Vol. 7
2021/08/17 発行
不定期刊



最寄り図書館に取り寄せ可

鈍色の戦後　芸術運動と展示空間の歴史

辻泰岳／著　水声社　2021.2 発行
本文 353p　22cm　702.16/ ネ 12　2021.4.23 受入　4,500 円＋税

目　　次

第一部 伝統　　鈍色の足場
第一章　占領下のアントニン・アンド・ノエミ・レーモンド
「Japanese Household Objects」展（1951 年）
第二章　方法としてのディスプレー 国立近代美術館とその会場（1952 年）
第三章　丹下健三と岡本太郎による壁画の設置 「メキシコ美術展」（1955 年）
第二部 デザイン 鈍色の議場
第四章　浜口隆一とアーサー・ドレクスラーの交錯
「20 世紀のデザイン」展（1957 年）
第五章　メタボリズムの場景　　「Visionary Architecture」展（1960 年）
第三部 環境　　鈍色の広場
第六章　百貨店のインターメディア「空間から環境へ」展（1966 年）
第七章　大阪が学んだこと　　モントリオール万国博覧会（1967 年）

資料概要

本書は、1940 年代後半から 1960 年代までの芸術運動に焦点を当て、その表象としての「展示空間」について、美術史と建築史の学際的な考察をしたものである。

戦後芸術、戦後建築を史的に扱う研究は端緒についたばかりであるが、著者は、これまで日本の特殊性などが強調されてきたために国際的な動向との関係を検討されることが少なかったことなどを課題として挙げる。そして、戦後日本の造形表現の相互的な影響関係を明らかにするために、美術・建築を横断して史化する視座を、展示空間の分析に求めたのである。

本書では、この時代に開催された美術展や博覧会などの展示空間では、どんな経緯で何が企図され、何がどのように展示されたのかを丁寧に見ていくことが行われている。このことで、芸術運動の動向はもちろん、その背景となった文化外交や、それぞれの展示空間がつくられる際の社会的な与件までも明らかにされている。

掲げられた資料から透けて見えるのは、同時代に発せられた美術や建築それぞれの主義主張の看板ではくくりきれない、芸術家、建築家・建築史家、評論家たち、あるいは観客までもが、立場を超え分野を超えて行った共同である。その結果、展示空間は、それぞれの近代というべきものが相互に混じり合ったものとして現れた。著者はこれを様々な色が混じり合った鈍色（グレー）にも例えられ得る時代像ととらえ、「鈍色の戦後」と呼ぶ。

アントニン・レーモンド、丹下健三、黒川紀章、磯崎新などの建築家。イサム・ノグチや岡本太郎、福沢一郎、菅井汲、高松次郎などの美術作家。田中一光、勝井三雄、粟津潔などのデザイナー。瀧口修造や東野芳明、中原佑介、坂根巌夫などの美術評論家。一柳慧や秋山邦晴などの作曲家や音楽評論家。これら戦後の文化・芸術を担った、レジェンドとも呼ばれるにふさわしい人々が、それぞれどのような文脈で戦後の展示空間を作ろうとしていたか。本書ではペンシルベニアやニューヨーク、モントリオールの資料をも参照しつつ、この「鈍色の戦後」の時代像を描き起こしている。

著者紹介

辻 泰岳（つじ やすたか）　1982 年生まれ。東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。博士（工学）。日本学術振興会特別研究員、コロンビア大学客員研究員、慶應義塾大学特任助教などを経て、現在は、筑波大学助教。美術史および建築史。共著に、Invisible Architecture（Silvana Editoriale, 2017）、『ミュージアムの憂鬱――揺れる展示とコレクション』（水声社、2020 年）などがある。

本書の第１章で取り上げられているのは、サンフランシスコ平和条約が調印される直前、1951 年 4～6月にニューヨーク近代美術館で開催された「Japanese Household Objects」展である。その展示品は、群馬音楽センターの設計者として県人になじみ深い、アントニン・レーモンドとその妻、ノエミ・レーモンドが日本で収集した器物だった。

フランク・ロイド・ライトの下で帝国ホテルの設計・施工監理をするために来日して以来、日本の建築界に大きな影響を与えたA・レーモンドであるが、本書では関係者の書簡などを丁寧に調べ、この展覧会に至るまでの経過を検証している。そこから見えてくるのは、レーモンド夫妻の、「本当の意味の日本的な美しさをわたしたちの目で紹介したい」との文化の当事者としての思いを、日米間の外交に託した姿である。

また、第３章では、本県ゆかりの画家、福沢一郎が「メキシコ美術展」（1955 年）の開催のキーマンとなったことが紹介されている。

本紙は、県立図書館が新たに所蔵した資料（図書資料・視聴覚資料）から、ぜひご利用いただきたいものを厳選してご紹介するものです。これらの資料は、禁帯出資料を除き、最寄りの図書館に取り寄せできます。
なお、本紙の内容は Web にも掲載しています。ご覧の際は右の QR コードをご利用ください。
また、内容の誤り等、お気づきの点があればお知らせくださるようお願いいたします。

群馬県立図書館　〒371-0017 前橋市日吉町一丁目９－１　電話：027-231-3008